

令和4年度学校評価自己評価表 学校名：廿日市市立宮内小学校

学校教育目標	自ら考え学び合い 心豊かに たくましく生きる児童の育成	〔ミッション ・ビジョン〕	「知・徳・体」のバランスの取れた児童の育成 児童の良さを見付け、力を最大限に伸ばす学校
--------	--------------------------------	------------------	--

経営目標に向かう ストーリー	「自ら考え学び合い、心豊かにたくましく生きる児童を育成」するために、「自ら考え学び合う子」「よさを伸ばし合う子」「粘り強く努力する子」の目指す児童像を柱として学校経営を行っていく。「自ら学び合う子」を「主体的な学びの推進」とし「わかった・できた・またやりたい、楽しさを感じる姿」を目指す。「よさを伸ばし合う子」を「自己有用感の向上」とし、「つながり支援プロジェクトの日常化」を図る。「粘り強く努力する子」を「ねばり強さと失敗からの学び」とし「新たにチャレンジする姿」を目指していきたい。これらを具現化するために教師の力量の向上、家庭地域の連携を進めていきたい。
-------------------	--

評価計画				現 状 値	目 標 値	中 間	最 終	達 成 度	評 価		
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のため の方策	評価指標								
①「本質的な問い」により、単元構想を立て、協働的に問題を解決することで確かな学力を身につける。	◎全ての教科でICTを活用した協働的な学習を進めることで授業改善を図る。	・わかった・できた・またやりたい、楽しさを感じる授業を行う。 ・ICTを活用する4つの場面を計画的に取り入れた協働的な学習を進める。 ・振り返り活動により授業改善を進める。	・児童アンケート「授業が楽しい、分かる」の肯定的評価の割合	92%	90%	90%		100%	A		
			・ICTを活用した授業を週6時間以上実施	—	90%	82%		91%	B		
			・授業後半に振り返り活動を入れる	—	85%	61%		71%	C		
			・全国学力学習状況調査の活用問題で正答率60%以上の児童の割合【市共通項目】	57%	65%	60%		92%	B		
			・標準学力調査でレベル3以上の児童の割合【市共通項目】	71%	75%	—		—	—		
(修正)											
②つながり支援プロジェクトの日常化を図ることで、自己有用感の向上を図る。	・挨拶の推進や異学年無言掃除の徹底、授業の改善を通して、意図的に肯定的評価を行うことで、児童の自己有用感を高める。	・つながり支援プロジェクトの日常化を図る。 ・「挨拶、掃除、靴そろえ、時間を守る」に全校で取り組む。	・児童アンケート「自己有用感」の肯定的評価の割合	88%	90%	89%		98%	B		
			・全校で行う「良いところ見つけ」で全員紹介	76%	85%	55%		65%	C		
			・児童アンケート「いつでも、どこでも、誰とでも挨拶をする」の肯定的評価の割合	—	80%	87%		108%	A		
			・児童アンケート「無言で時間いっぱいすすみまで掃除をする」の肯定的評価の割合	—	80%	96%		120%	A		
			・教職員評価「挨拶、掃除、靴そろえ、時間を守る」の定着率	93%	95%	86%		89%	B		
(修正)											
③ねばり強さと失敗からの学びを意識した指導を行うことで、心身の健全な成長を図る。	・基本的な生活習慣の確立を図ると共に、失敗から学び新たにチャレンジしようとする児童を育成する。	・家庭と連携して「早寝」の生活リズムの定着を図り、定期的に「宮内元気っ子カード」をもとに指導する。 ・キャリア教育の充実を図る。	・「宮内元気っ子カード」で設定した就寝時刻を守れた児童の割合	81%	85%	67%		78%	C		
			・不登校児童数の減少（不登校率の推移）【小中共通項目】	9人	8人	8人		100%	A		
			・キャリアログの活用	—	100%	100%		100%	A		
			(修正)								
④業務改善を進めることで、時間外勤務を縮減する。	・教職員のやりがいを高め、充実感をもたせる。	・同僚性の醸成を図る。 ・業務改善を進める。	・時間外勤務月 45h 以上 60h 未満・60h 以上の教職員の割合	36%	25%	27%		92%	B		
				11%	8%	5%		160%	A		
			(修正)								



結果と課題の分析・改善方法等（中間）			
① ・ICTを取り入れた協働的な授業を行ったことで、児童相互が視覚化された考えをもとに話し合ったり学びあったりすることができ、「授業が分かる・楽しい」につながったと考えられる。 ・「授業改善のためのICT活用推進しよう！事業」でICT支援員による指導助言があることで、教員が安心してICTの活用を行うことができた。 ・公開研究会、教育長ミーティング等でICTを使った授業を意図的に行ったことで、教員がICTに取り組む環境ができた。 ・授業後半での振り返り活動は61%と低い値であった。「本質	② ◎自己有用感向上に有効な取組 ・「良いところ見つけカード」の紹介。週2回5、6分の放送のため紹介児童数は目標に達していないが活性化している。 ・縦割り班掃除で高学年が活躍できるための意図的な取組。年度始めの掃除の仕方教職員研修、高学年対象の担当者との打ち合わせ、全校対象の掃除オリエンテーション等を丁寧に行うことで高学年が自信をもって活躍している。 ・教職員の普段から児童を認める声かけ。児童アンケート「先生は認めてくれている」の肯定的回答90%。 ○今後に向けて ・「良いところ見つけカード」につい	③ ◎自分が設定した就寝時刻が守れていない児童が多くいる。原因として、ゲームやSNSに依存していることが考えられる。また、6年児童の約20%が日々の就寝時刻がそろっていないというデータもある。適正な睡眠時間の確保や規則正しい生活習慣を守ることの大切さ等について指導していく。 ◎不登校児童数の減少 ○未然防止 ・自己有用感向上の取組を進める。 ・学級集団作りを中心とした人間関係作り ・教師との信頼関係 ・授業改善 ○初期対応 ・保護者連携、関係機関との連携	④ ・教員アンケート「時間を意識した働き方をしている」の肯定的回答96%とあるように、時間外勤務時間が減少し、時間を意識した働き方ができつつあるといえる。 ・全体としては業務改善が進んでいるものの、個々の時間外勤務の動向を見ると、時間外勤務45h以上となっている教員が固定化する傾向にある。時間外勤務時間の削減に向けて、学年主任を中心として声をかけていくこと、月半ばで時間外勤務時間が20h超の職員に勤務時間を確認できるよう個票を配付していくことに取り組んでいく。

<p>的な問い」から単元全体の構想を考えるとともに、振り返りを活用して1時間毎がつながる授業が実現できると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の活用問題の児童の達成率は目標に達しなかった。学年を通して、算数では生活とのつながりを感じさせ量感を鍛えたり、言葉→式→図の関連付けを意識させたりする必要はある。 	<p>て、新たな視点の提示や内容向上のための工夫をし、より活性化させる。</p> <p>◎「いつでもどこでもだれとでも挨拶する児童の育成」に有効な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が積極的にを行う共通の挨拶運動。 ・運営委員会の取組（自主的な挨拶運動、代表委員会での話し合い、学級目標の掲示等） <p>○課題と今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員アンケート「挨拶をしている」肯定的回答63%。児童は挨拶をしているつもりになっていることが考えられる。自分から挨拶できる児童にする必要がある。学級目標の掲示、取組を充実させていく。 	<p>○長期化への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校外での居場所作り（子ども相談室、schoolSの活用等） <p>◎キャリアログの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から様式変更。自己の成長を振り返り、目標設定を行うことで自己認識力の育成を進めている。 	
---	--	---	--

全体：
 主体的な学びの推進に向けて、「本質的な問い」から単元全体の構想を考えていく。また、教師のファシリテート力を高めることで授業改善を進めていく。
 自分から挨拶をできる児童を育てていくために、学期初めに教職員が共通で行う挨拶運動や運営委員会を中心とした取組を行う。
 児童の帰宅後の時間の使い方の実態を把握し指導をするとともに、家庭と連携することで、規則正しい生活をさせていく。
 後期に時間外が増加する傾向にあるため、計画的に業務できるよう声かけを行う。



結果と課題の分析・改善方法等（最終）			
①	②	③	④
全体：			



学校関係者評価を受けての次年度の方針・方策			
①	②	③	④
全体：			

【自己評価】

・「達成度」＝報告期の達成値 / 目標値

・「評価」は、目標値に対する達成の度合い

(A・・・100%、B・・・80%以上、C・・・60%以上、D・・・60%未満)